

キャロライン ルー
シンガポール
教員

①新型コロナウイルス感染拡大前後で生活はどのように変化しましたか。

パンデミック発生時、私は日本で ALT をしていました。パンデミック以前は毎日登校し、生徒と会っていました。名古屋、広島、秋田など、日本各地に小旅行に行ったりもしていましたが、パンデミックが深刻になり、あまり行かなくなりました。

シンガポールに戻ってきたのは 2020 年、まだ大流行が続いている時期でした。日本同様、不要不急の外出は制限され、外出時には衛生面に気をつけなければなりませんでした。

仕事で一番変わったことは、パンデミック中は通勤しなくてもよくなったことです。朝に少し長く寝ていられるようになったのはとてもよかったです、周りに同僚がいないのを寂しく思うこともありました。

日本の学校では、後ろを振り向けば日本人の先生がいて、話をすることができました。シンガポールに戻って新しい仕事に就いたときも、最初のうちは自宅で仕事をしなければなりませんでした。新しい同僚に会えたのは、ずっと後になってからでした。実際に対面できたのは、仕事を始めてから 1 年後くらいだったと思います。とても変な感じがしました！

②コロナ禍で気づいたことや学んだことはなんですか。

私たちがいかに変化への順応性が高いかを知ることができました。当初、教員はオンラインレッスンの実施にいろいろと苦労しました。どんなツールを使えばいいのか？生徒の顔が見えないのに、どうやって教えるのか？そんな疑問が頭をよぎりました。しかし、時間が経つにつれ、新しい生活に慣れ、オンラインでうまく教えられるようになっていきました。

④現在（2022 年 12 月）のシンガポールでの生活はどうですか。

現在シンガポールでは、多かれ少なかれ、コロナ前の状態に戻っています。私の学校ではオンラインレッスンがなくなり、すべての授業が対面式に戻りました。これは内緒ですが、時々オンラインで教えるのが恋しくなることがあります！誰も思いもしなかったですね。

シンガポールでは最近、観光客も多くなってきました。公共交通機関を利用する時以外はマスクは必要ありません。家族や友人と一緒に大勢で集まることもできます。コロ

ナによる行動制限を経験したことで、私たちはより自由に対して感謝できるようになったと思います。

⑥姫路のみなさんへのメッセージ

3年間働いたので、姫路は私にとって特別な場所です。帰国してから2年以上経った今でも、姫路は私の記憶と同じように美しく、興味深い街であることは間違いのないと思います。近いうちに訪れたいです。皆さんはどうですか？また旅行ができるようになった今、行ってみたい国や都市はありますか？